

I 調査の経過

この報告は奈良市平松町312—387番地と五条町812—880番地にまたがる地内に奈良市が計画した仮称第13中学校建設予定地の発掘調査に関するものである。

奈良市西南部ではここ数十年ほどの間に宅地化が進み、児童生徒数が急激に増加したため、2～3年前から中学校をこの地に新設する計画がたてられていたが、地元との話合いがまとまり、昭和52年度の開校を目標としてこの事業が51年度中にはじめられることになった。

建設予定地は平城京右京五条四坊三坪を中心とする地域にあたり、丘陵地であるが今日の地割にも条坊痕跡を部分的にとどめるところである。これまで公共機関による平城京内の大規模な開発事業については奈良県教育委員会文化財保護課の行政指導によって事前の発掘調査がいくつかおこなわれ、貴重な成果をあげてきた。県とも協議の結果、調査は奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が奈良市からの依頼で行なうこととなり、7月に関係者間で、経費、方法、期間等についての話し合いを重ねて調査計画がまとめられた。敷地は中央部に南から谷が入りこんでいるため、やや高い北及び西方の丘陵部を約80cm削って全体をほぼ平坦にならす計画で、整地後は台地上の遺跡は消滅することが明らかであった。一方、工事の開始は進入道路の整備をまって10月初旬と予定されており、調査の期間は約2ヶ月の余裕しかなかった。そこで調査の重点を台地上の平坦部におき、条坊と住居遺跡の存在が予想される箇所だけに限ることとした。樹木の伐採、電線敷設、器材搬入などの準備段階を経て昭和51年8月19日に調査を開始し、10月8日に終了した。調査対象面積は31,122㎡であり、このうち2,360㎡について発掘調査をおこなった。



第1図 発掘区周辺条坊復原図 斜線部分が右京五条四坊三坪 (奈良県遺跡地図による)